

# 「元に戻る 元とは何処なのか？」

## 出エジプト記15章24節～27節、16章1節～36節

私たちにとって「元」という所がとても大事です。皆さんにとっての元とは何所でしょうか？イスラエルの民の元は何所だったのでしょか。元がずれると私たちの生き方というのは大きく変わってしまいます。元とは、イエス様を信じる前ではありません。本当の「元」があって、そこから外れてクリスチャンになって戻っただけです。イスラエルの人々はそこが間違っていました。【出エジプト記15章24節～27節】この聖書箇所の後、2回目の試練の地である荒野に行きました。またイスラエルの民はモーセを石で撃ち殺そうとしました。元のほうが良かったと。目の前で奇跡を何度も見ながら、試練になると神様が本当にいるのか試みたのです。6日間は各自食べる分だけ食べて良い約束を受け、7日目は安息日とするように定められました。しかしイスラエルの民は、6日目には2倍の用意があったにも関わらず、7日目には安息日を守ることなく探しに出かけていきました。【出エジプト記16章1節～36節】神様は不平不満をいうイスラエルの民たちに40年間変わることなくパンを食べさせてくれます。しかし彼らの行為は絶えず「喧嘩」だったのです。ずっと。あなたは喧嘩していませんか？

エジプトからカナンの地までは約300km、徒歩で約2ヶ月到達する距離です。神様はイスラエルの民を約束の地から連れ出して、カナンの地に入れるまで40年間、2ヶ月で到達できるところ、40年間入国させる事ができなかったのです。神様が最初約束した場所に彼らは入るのに40年要したのです。40年間神様は彼らを入れることができなかったのです。これは怖いことです。なぜかという、彼らの「元」が無かったからです。彼らにとって「元」はエジプトだったのです。しかしエジプト救ったのは彼らの先祖であるヨセフです。ヨセフのおかげで、エジプトとヨセフの家族は救われエジプトの地で家族が増え広がりました。しかし、そのような出来事は忘れ去られ、崇高な思いいつの間にか私たちの心の内側から変わってきて物質的なものに目向いていきます。人の心というのはだんだんとこくなってきてしまいます。私たちの心には最初の思いが失われるという怖さがあります。のど元過ぎれば熱さ忘れる。ついこの間まで悩んで戦っていたことが少し良くなるとすぐに忘れてしまい元に戻ってしまうのです。しかし、私たちの元とはそこには無いのです。でも私たちの目線はその元なのです。これは気を付けないといけません。クリスチャンが元に戻る「元」とは、あなたが救われる前の段階ではありません。最初に神様に創られた姿です。神様が最初約束した場所に彼らは入るのに40年要したのです。40年間神様は彼らを入れることができなかったのです。これは怖いことです。なぜかという、彼らの「元」が無かったからです。彼らにとって「元」はエジプトだったのです。しかしエジプト救ったのは彼らの先祖であるヨセフです。ヨセフのおかげで、エジプトとヨセフの家族は救われエジプトの地で家族が増え広がりました。しかし、そのような出来事は忘れ去られ、崇高な思いいつの間にか私たちの心の内側から変わってきて物質的なものに目向いていきます。人の心というのはだんだんとこくなってきてしまいます。私たちの心には最初の思いが失われるという怖さがあります。のど元過ぎれば熱さ忘れる。ついこの間まで悩んで戦っていたことが少し良くなるとすぐに忘れてしまい元に戻ってしまうのです。しかし、私たちの元とはそこには無いのです。でも私たちの目線はその元なのです。これは気を付けないといけません。クリスチャンが元に戻る「元」とは、あなたが救われる前の段階ではありません。最初に神様に創られた姿です。神様が最初約束した場所に彼らは入るのに40年要したのです。40年間神様は彼らを入れることができなかったのです。これは怖いことです。なぜかという、彼らの「元」が無かったからです。彼らにとって「元」はエジプトだったのです。しかしエジプト救ったのは彼らの先祖であるヨセフです。ヨセフのおかげで、エジプトとヨセフの家族は救われエジプトの地で家族が増え広がりました。しかし、そのような出来事は忘れ去られ、崇高な思いいつの間にか私たちの心の内側から変わってきて物質的なものに目向いていきます。今は恵みの時代で当時のような状況に置かれることはありません。だからこそ試練があった時に感じなければいけません。喧嘩私たちの性質こそこの出エジプトから学ばなければなりません。キリストの基、これが私たちの元「基礎」なのです。

### ① 真理と善～水と木～

真理とは？

水が沸いていました。そこで飲もうとしたら苦かったのです。聖書の中で水という言葉が出てきたら真理という意味があることを理解しましょう。その水が苦かったということは、真理では無かったのです。【出エジプト記15：22～24】イスラエルの民の心の内側にはエジプトが住んでいました。神が創った性質とは違うエジプトとこの世の知識という真理では無い知識という苦い水があったのです。そこに木を投げ入れました。これが「善」です。善とは？木とは？なぜ木を投げ入れたら水が良くなったのでしょうか？これが十字架の指されたものなのです。イエス様がしたのは、「正義」ではないのです。「善」であるということがわかります。そして真理とは「愛」です。つまり善の「基」は愛ということがわかります。イスラエルの人々がモーセによって伝えられたけど理解できなかったこの苦い水と木の奇跡。モーセが投げ入れた瞬間からその水は甘い水になりました。苦い水は生き物が生きることができません。苦いものというのは毒であり、その毒を聖書は真理とは相反するものだと言っています。聖書は真理と反するものはこの世の知識だと伝えています。あなたの中にある知識、知識は人を高ぶらせ知識は神の恵みから離れさせ、それゆえ恐れるということが知識の初めではなければならない、それが神を恐れるというその最初の神を知るところだったのです。ところが、イスラエルの人々の元はエジプトだったのです。神の基では無いのです。「前の方が良かった」「元に戻りたい」「前に戻りたい」という概念は、神を恐れるという概念ではなく、人の世界だったのです。あなたの中にある、過去を取り除かなければいけません。その過去とはあなたの基になっています。あなたがその基を持ったままでは神の本当の恵みの地には入ることができないのです。だから彼らは40年もの間、この元の場所がわかるまで入れなかったのです。聖書はいつも伝えています。先の事どもを思い起こす過去の事どもを思い起こすな、見よ私は新しいことをする。今もうそれが起ころうとしている。荒野に道を荒れ地に川を今それがもう起ころうとしている。神様が居る場所が荒れ地でも蜜の流れるところであることを知らなければなりません。私たちに力はあります。祈る事ができるという力です。その祈りは私たちの心に変化をもたらします。イスラエルの民が、文句を言ってどうにもならない状況に、モーセは神に祈りました。すると神は「解決」を与えました。教会はあなたが苦しくてモーセを言えない場所ではありません。苦しくて辛いことを言える場所です。しかし同じように悩みを抱えている人に共感を求めていくのは、神様の解決にはなりません。みんなで喧嘩しては荒野になってしまいます。一人が喧嘩したら、その他の人が聞きつつ分り合いつつしかし正しい方向に戻っていきます。教会はそのためにあります。私たちの内側から真理を取り去るものがあります。悪魔聞

いてきます。「この園の木の味から神は全て食べてはならないと言ったのか？」と。悪魔はあなたに正しいことなどと言ってきません。最初から騙すつもりでやってきます。ですから、あなたの苦しい心が心に訪れたときには、イエス様の十字架が基であることを思い返してください。イエス様があなたをどうしたかったのか？あなたの元はイエス様の十字架です。元が違くと私たちは頑なになってしまいます。「頑な」という心が中心にあると神の栄光が去ってしまいます。私たちの目標である目標点とその出発点が違くと、人は頑なになるのです。聖書があなたに伝えたいことはとても壮大である事を理解してほしいのです。その中で私たちはよくその真理を理解しなければなりません。しかしそれは簡単なことなのです。愛に基づいての行動かということです。イスラエルの民が愛から離れたのは自分が出たからです。自分のお腹が減った、自分が喉が乾いた。自分が苦しい。ということでした。しかしもしそれが我が子達の状況なら、モーセに対する訴えは変わったでしょう。人は自分の痛みになると不平になります。今日あなたに伝えたいことは、十字架のなせる業は素直という奇跡であるということです。自分の為に十字架にかかられたイエス様の前であなたは喧嘩しますか？しかし十字架でイエス様はそこで言われるのです。「あなたの痛みと願いを私に言いなさい」と。素直なやり取りとは、不平や喧嘩を言うものではありません。遠回りに訴える喧嘩で無く、素直な率直な願いを伝えることです。イスラエルの民はエジプトに帰りたいは知ってはいないのです。しかし素直に言えなかったのです。この世の世俗が、知識が私たちになせる業は素直を奪い去る行為です。あなたは本当に素直かどうか考えてみましょう。もしも素直で無いならば、あなたの願いはその罪ゆえに届かないのです。神の国に入る入口に入れなくならない為に神様に訓練することを覚えておいて下さい。イエス様に私たちが素直に向かえなければ神の赦しを得ることができないのです。それは救われないということではありません。その保証はあなたとイエス様の間でしかないのです。その空間であなたが信じているか信じていないかは素直か素直じゃないかがその信じていることの保証です。あなたがイエス様に素直に言えるなら十字架が分かっているということです。もし素直に神様に痛みを宣言できるならその十字架の奇跡がどんなものか分かっているのです。それをわからせてくれるのは知識ではありません。それは御霊の力です。あなたの内側に神様が働くことあなたに十字架が分り素直に出られるのです。着飾る必要も繕う必要もないのです。「見よ。主の御手が短くて救えないではない。その耳が遠くて、聞こえないのではない。あなたがたの咎が、あなたがた、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」イザヤ書59章1～2節

### ② 前進

あなたももし今試練のうちに置かれているのなら、止めないで下さい。とどまらな

いでください。諦めないで下さい。終わらさないで下さい。前進しなければなりません。イスラエルの民に神が40年、「進め」と言われたのです。「向きを変えて出発せよ。」

### ③ 本当の善 ～シンとシナイ～

エリムで神様が70本の木を与え、12の泉を与えました。真理の泉が12、イエス様の十字架によってなされた真理が弟子たちに確立されていることを予言しています。その真理が溢れて完全な数になってそこに泉のように沸いている、それはエゼキエルの中で予言されていますが、くるぶしとなり、人々が泳げるほどになり、その水の行くところがすべて生きる真理であると伝えています。そしてその真理の泉とともに70本の木・完全に完全を掛けた善なのです。神の真理がある処には善があるのです。しかしシンという処はまだ善では無いのです。民はまだここで第2の試練にあいました。頭では善を行わなければならないことを理解できていました。しかし心は伴わなかったのです。これは、最善では無く、やらされているという善だったのです。真理の泉から始まるがそこに到達できていないという状態です。最善に至る手がやらされている善です。これが喜んで出来るようになると向きが変わります。ここから民はカナンの地に向かっていくのです。例え目の前が荒地であってどうにもならない環境があったとしてもそこに入ったら変わります。城壁は崩れ落ち、敵の中で味方が現れ、民らはそこで助けられ、そしてその敵は滅ぼされ間違った悪は滅ぼされ、あなたがする事で何をしても栄える状況に至るのです。イスラエルの民が40年間荒野で戦ったのですから、私たちは数年の事で諦めてはいけません。例え今やらされている感で、自信を失い自分がろくでもない者のように思える時があるかも知れませんが、そしてその怒りは本来自分に向くべきものが別の方向に向いていて、人に指を指すかも知れませんが、だけれどもここで騙されないで下さい。繰り返しますが、あなたの中にエジプトをつくったのは神様ではありません。欲にまみれ、世俗にまみれ、知識であなたを左右しようとする力はあなたではありません。簡単な事です。あなたの元はそこでないということを理解すればいいのです。あなたの元は神様の腕の中です。そして神様の腕に抱かれるあなたは完璧なものです。それが元の姿なのです。今日、向きを変える時です。あなたは苦しかった過去をしっかりと理解し、傷ついたあなたを認め、あなたによって創られたあなたになってあなたを絶望しました。自分ながら不要だと感じるようになりました。自分はどうにもならない弱い人間だと理解しました。そこで初めて人はそのあなたを十字架にかけられる事が出来るのです。

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

コリント人への手紙第II章5章17節

だれでもキリストのうちにあるなら...

(要約者:富岡 牧)

(6月12日)